

平成 27 年度 第 5 回東区まちづくり懇話会議事録(要旨)

1 開催日時

平成 28 年 2 月 15 日 (月) 午後 1 時 30 分～午後 3 時 45 分

2 会場

熊本市東区役所 1 階 101・102 会議室

3 出席委員 (順不同)

澤田委員、松瀬委員、佐土原委員、西原委員、松永委員、古嶋委員、
水谷委員、竹山委員、山田委員、伊志嶺委員、村上委員、吉田委員、
竹本委員、松尾委員、宮崎委員、餅崎委員、戸高委員
17 名出席

4 議事

- (1) 平成 28 年度東区まちづくり推進事業について 資料 1
- (2) 平成 28 年度重点協議事項について 資料 2

5 報告

- (1) まちづくり支援機能の強化と出張所等の再編について 資料 3
- (2) 健康まちづくりシンポジウムについて 資料 4

6 閉 会

議 事

(1) 平成 28 年度東区まちづくり推進事業について

○会長

議事に入る。昨年、このまちづくり懇話会において審議を行った内容についてまとめたものを平成 27 年 12 月 10 日に区長へ報告を行った。まず、この報告書の内容をふまえて次年度以降どのように取り組んでいくのか、事業の概要について説明いただきたい。また、前回の懇話会において私から提案した「今後の東区のまちづくりの方向性」についても継続的に審議していきたいと考えている。この件についても意見をいただきたい。

平成 28 年度東区まちづくり推進事業について事務局より説明をお願いします。

■事務局

(1) 平成 28 年度東区まちづくり推進事業について（資料 1）

この 17 事業については、区長に提出された報告書に基づき次年度事業として予算要求を行っている段階である。この中から、新規事業を中心に説明する。

(No.1、5、10、12、15 について説明)

○会長

事務局から説明のあった「平成 28 年度東区まちづくり推進事業」については、昨年の懇話会において出された意見に基づき組み立てられたものである。

何か意見、質問はないか。

○会長

意見、質問がなければ、議事(2)「平成 28 年度重点協議事項について」に移る。

今まで、次年度のまちづくり推進事業について審議を行い、意見をいただいていたところであるが、まちづくり推進事業の枠内で話が終わっている。そこで、枠に縛られず今後の東区のまちづくりの方向性について意見をいただきたい。

事前に委員からいただいた意見を資料 2 に記載してあるが「地域におけるまちづくり全体の話」「高齢化対策」「子育て支援」に大別できると思う。今回は、地域におけるまちづくり全体について意見をいただきたい。

まずは、提案いただいた委員から内容の趣旨説明をお願いしたい。

○委員

例えば、「高齢者」であれば、ささえりあで取り組まれているが、個々で取り組むだけではなく、東区には県立大学等もあるので学生、先生方や地域の事業者、行政等で集り、意見を出し合って総合的にまちづくりを考えたいという考えで施策を進めたほうがよいのではないかとということで提案させていただいた。

○委員

東区における課題として「健康」があると思う。東区は5区の中で1番人口が多い。高齢化率については外の地域に比べて低いですが、ここ数年間の推移をみると上がっている。また、熊本市は政令指定都市の中で生活習慣病も多く、医療費も大きくなっており、そういったものの抑制にもつながるよう、地域の事業者健康増進における貢献が何か出来ないかということを考えている。

また、商工会でも会員事業者と勤めている方を対象に、健康診断の受診率を上げ、健康増進に寄与しようということで費用助成を行っている。東区には日赤病院をはじめ医療機関も多いことから、生活習慣病、高齢者等の「健康づくり」について商業・サービス業等で何か出来ないだろうか。

「健康増進」を地域の大きな課題として取り組んでいけば、地域の様々な部門で協力体制を築くことが出来るのではないだろうか。

○会長

委員の皆さんに質問したい。自治会単位等でまちづくりを行われると思うが、その際に行政に期待すること、事業者に期待することは何であるのか。それとも、行政、事業者とは無関係にまちづくりを進めているのか。

○委員

まちづくりというのは、人々が集って作っていくものである。手っ取り早いのは祭りやスポーツを通じた交流であると思う。昨年から自衛隊通りの桜祭りでは各種団体に呼びかけて協議を行っている。商店街、銀行、企業、自治協議会等、最終的には行政にも参加してもらい、全てを網羅した考えで桜祭りを実現したい。こういったことが、まちづくりの基礎であると思う。東区18には校区があるが、各地区においても、こういった形で進めていければ総合的なまちづくりが出来ていくと思う。

○会長

自治会単位よりも少し大きいエリアで、例えば「校区」単位で祭りを開催する。そこに様々な団体が参加し、力を合わせて祭りを作っていくことで連携が図られ

る。東区においてもいくつかプロジェクト的に出来ないかということですね。他に意見はないか。

○委員

様々な人々が集り、多くのことが認知され、交流できる大きなイベントもよいが、何かを進めるときに、今、見直されているのは、最初は小さいところから進める「スモール型」という考え方である。スモール、ミドルときて大きくなるのであれば、そこから初めて校区や地域支援型のグループとしてやっていくのもいいのではないかと思う。

○会長

まず小さい単位から始めて、段々と広げて大きなまちづくりを実現していくという意見であるが、その点で言えば、委員の「桜祭り」の話においても、元々、小さな組織がしっかり機能しているからこそ大きなことが出来るのかもしれない。こういったことは、他の地域においても考えられることであるのか。

○委員

人と人のつながりが出来て、自治会単位へつながっていくものである。最初から大きく取り組むのは難しいのではないか。

○会長

小さいところから、しっかりと人づくりを行い、まちづくりへつなげていくということですね。

○委員

自治会として年間を通して様々な行事を計画しているが、参加者が固定化している。参加する人と参加しない人とが、はっきりと分れている。メンバーが固定化されたら何も広がっていかない。そうならないように様々な世代が参加できるように行事計画をしているところである。参加しない人たちをいかに引っ張り出すかが、最重要課題となっている。自治会内での連携をいかに図るかが大事であると思う。自治会として一番苦慮している部分である。

○委員

現在、桜祭りは、4校区で一緒にやっていく計画になっている。以前は各地域で祭りも行われていたと思う。校区で連携しながら、祭りの復活や祭りをやっていく中で、「まちづくり」というものが広がっていくのではないだろうか。いつ

か18校区で開催できればと願っている。

○会長

委員の話にあった桜祭りは、多くの人が関わって作られている。一方で、委員の話にあったメンバーの固定化については、よそでも話を聞いており、他の自治体でも課題となっている。この違いは何であるのか。

○委員

ひとつは横のつながりがないことだと思う。そこをいかにつなぐかが重要であり、そこがうまく出来ていないと1~2回は成功しても、後に続かない。

○委員

行事を開催するには場所が必要であるが、ある程度の人数を集めようとする行事を行う場所がない。私の地域には公園や公民館、憩いの家等がある。夏祭を開催しようと思うが、公園は住宅地に隣接しているため開催出来ない。場所がないのも課題のひとつになっている。

○会長

固定化したメンバーを広げていくということが重要になってくるが、どうやって広げていくのかということを知りたい。

○委員

世代間の考え方の違いが大きいと思う。例えば、子ども会関係の行事についてであるが、子どものことを考えて行事を計画するが、世話をするのが大変だという理由など、親の都合で行事が出来ない。今は共稼ぎの世帯も多いので、昔とは考え方も違う。

○会長

先程、委員より地域と事業者の連携についての話があったが、具体的にはどういところからつながりが始まると考えますか。

○委員

いきなり全体的な取組みは難しいと思うので、まずは、医療機関、大学、事業者で検討する場を設けたいと考えている。

○会長

まずは小さいところから始めて、広げていくということですね。どうやって広げていくのかということであるが、地域、行政、事業者、教育機関と連携を深めるべきであるとの提案であったが、この点について何か意見はないか。

○委員

地域の活動等、場所の設定については、ある程度、行政が動くべきと思う。小さい公園で夏祭りを開催するとなれば警察の協力も必要となってくる。何か開催しようとするれば、周りの支援、理解が必要となってくる。そうなってくると総合的に考えなければ進まないと思う。例えば、健康まちづくりを進めるにしても、ウォーキングするための場所はなく、普通の道路しかない。それなら歩道を歩けるようにする等、そういったことを総合的に考え、進めないとうまくいかない。健軍川付近で道路をウォーキングされている方や、ベンチに腰掛けている高齢者の方を見かけた。ウォーキングスペースやベンチの設置など、そういったちょっとしたところを行政が手助けすれば、自然と歩いて健康になるのではないだろうか。そういったことを集って総合的に考え、実践してみるということではないか。せっかく様々な分野の人が集まっているのだから、ひとつのアイデアを「まちづくり」「健康」など特化して、モデル的な取り組みを作り上げるのがいいのではないだろうか。単発的なアイデアで終わっているように感じる。そういう意味で提案させていただいた。

○会長

ひとつのプロジェクトに絞って、それを実現するための方策をみんなで考えていくということが必要ではないかということですね。

○委員

先日、健康まちづくりシンポジウムに参加し、話をさせていただいた。まちづくりを進めるうえで、やるべきことが地域によって違うと思う。また、資産も違う。健康まちづくりの中でも課題となっており、ニーズにもよると思うが、こちらからの働きかけとしてどういったものをするべきかということも、そこで大きく変わってくる。何が資産としてあるか等、そういったものを知るための「顔見せ」会議としてシンポジウムを開催されたところである。地域ごとのニーズはあると思うが、何があるか、どういうことが出来るかということがわかってこそと思う。先程の祭り開催についても、どこかの協力が必要ということであれば、その人達と集って話をすることになるので、18校区でそれぞれ祭りを開催するとなれば、場所の問題、交通の問題、何が必要かということになる。そうな

れば、警察に来てもらう。公園管理の部署に来てもらう。事業者で大きな体育館を所有するところに来てもらう。関係者が集って、そこで祭りに必要なものは、こういったことであるということを訴えてもらい、それぞれが協力出来ることを出し合う。そうすれば話が進んでいくと思う。テーマを決めて進めることも必要であり、人の結びつきを作る場を設けることも必要である。そうなるためにどういう仕組みを作っていくかということではないか。有志に頼ってしまうと、その人がいなくなれば終わりになってしまい続かない。ずっと続くシステムをつくる事が出来ない。委員の意見にあったように小さなところから始めて、継続できるところから始めてみることもひとつの方法である。先程の祭りの話にあったように、横のつながり、顔見せの場ということでもいいと思う。様々な目的に応じて、少しずつ違ってくると思う。私の地域でも祭りや体育祭をやっているが、限定された方達が頑張っているというのが現実です。行政側からまちづくりをアシストしていただけるのであれば、どのように接着剤となっただけなのか、何か必要と言えば、そこへアプローチをする窓口になっただけなど対応してもらえようになると思う。委員が言われたように、参加事業者がニーズに対して出来るがあれば、提供出来るようにしておくといいと思う。また、この懇話会を提案する場として作っていくのか、それとも具体的にシステムを作るところまでやるのかははっきりさせておいたほうが効率がよいのではと感じた。

○会長

どのように動くシステムを作っていくのかというところで、行政の役割についてであるが、行政が人と人とをつなぐ接着剤のような役割を果たせないか。また、事業者が出来ることに対しての接着剤のような役割を行政が出来ないかという意見であった。まちづくり推進経費については、ある程度使い道が決められているが、それ以外で行政にどのような支援ができるかという部分において、接着剤的な役割が求められるのかもしれない。

○委員

コミュニティセンターの仕事をしているが、その中で、体操教室の講座をやりたいという方が部屋を借り生徒を募集して、一人でも多くの方に健康になってもらいたいという思いでやっておられる。ある時、ささえりあ主催の健康講座がうちのコミセンで開催された。参加者から「ささえりあの健康講座は無料だから」という声を聞いた。確かに個人の先生がやる時は高くはないが、有料となる。「一人でも多くの方々が健康になるために」という考えにおいては、個人の先生もささえりあも一緒であると思う。個人と事業者になるが、そういうところも含めて、もっと行政とも連携して、一体になってやっていけないだろうか。遠くへ

は行けないが、地域のコミセンまでならいけるという方もおられると思う。そういうのも必要ではないか

私は月出に住んでいるが、町内が3つある。その中で2つの町内がそれぞれ夏祭りを開催している。校区の防犯の方、交通の方は両方の手伝いに出られる。私たちの世代からすると、どうして一緒に出来ないのかという想いがあり、何回か意見を出したことがあるが、場所がないということであった。そこで小学校を借りるという話になったが、学校側からいい返事がもらえない。しかし、どんどやの際には、学校の校庭を貸してもらっている。様々な事情はあると思うが、地域の行事など配慮してもらえれば、それぞれ校区が一体になると思う。町内では確かにまとまりがあるが、校区でそれをするによって、もっとまとまるのではないだろうか。もうひとつの町内は夏祭りはしてないが、秋のバザーをされている。それぞれの町内で考えてイベントを行っているが、校区が1つになるには、そういった場所を貸していただくことも必要である。楽しかった思いがあれば、次の年にもつながり、参加者も積極的になり、様々な面でプラスになるように思う。

○委員

私は民生委員をしているが、民生委員はささえりあと深く関わっており、各校区、各町内でそういったことに取り組んでいる。また、平成29年度から高齢介護福祉課で高齢化を見据えたまちづくりの構想があり、その構想を一度聞かれれば、参考になると思う。今年度から、ささえりあを核として、民生委員、青少協、体協等すべてをひっくるめたところで、高齢化した場合にまちとして機能するような方向を作っていこうということで、協議体を立ち上げる。高齢介護福祉課の説明では、平成29年度から介護保険制度が大きく変わるということで、介護保険から行政が手を引いた分を民間の事業者が委託を受けて行うことになり、選択肢が増えるとのことであるが、経済的負担は利用する側が増えることになる。そこで、高齢者の方が増えても、機能していけるような町内、校区を作りたいというのがその構想です。みなさんの意見にある「まちづくりの活性化」と平行しながら「高齢化した場合のまちづくり」も動き出している。そういった広範囲の意味でのまちづくりを考えたほうが良いと思う。

○委員

その話は、自治協議会は知らないが、自治会は関係ないのか。

○委員

今までは、民生委員や社協に話がきていたが、今年度から、自治協等横に広が

っていくことになる。

○委員

順序が逆ではないか。民生委員や社協に先に話しをして、後から自治会に「決まったからしませんか」ではおかしいと思う。市のやり方がおかしいのではないか。

○委員

この話は、ささえりあを通じての話であり、市がささえりあに話をおろして、ささえりあから民生委員や社協に話が来たものである。以前からある構想であり、平成 29 年度に介護保険制度の変更もあり、高齢化に対応するためのまちづくりの構想についての説明が、今年度から横に広がり、自治会長にも話がいくことになる。

■区長

今の話を補足すると、現時点では計画を作ろうとしている段階である。各種団体の代表に参加してもらい協議を行っている。その協議の団体の中に民生児童委員協議会の代表に参加してもらっており、その計画が出来て、実施していく時に自治会長へは説明させていただき、協力依頼を行う流れになる。

○委員

第 1 回認知症カフェを 2 月 10 日に開催した。名称もさくらカフェへと変更し、1 人 100 円の参加費とした。41 名の参加があったが、その内男性参加者は 1 名であった。男性参加者を増やすことが、今後の課題である。

○委員

自治会では様々な行事を行っているが、参加者の 8 割が婦人部や老人会である。私の校区で言えば、子どもの活動をすれば、ほとんどの親が参加するだろうということをやっているが、父親の参加はゼロ、母親は何人か来る。中高年層が行事に参加してくれるなら、盛り上がりも違ってくると思う。私も中高年層に色々参加をお願いするが、参加するのは女性がほとんどで、男性は 1、2 名程度である。この中高年層を動かすために、まず、市職員が土日に校区行事に率先して参加したらいいと思う。

■ 区長

人間の行動という観点から言えば、強制的に参加させても、1回目は出てくるが、長続きしないのではないだろうか。行動には、幸福感が影響している。例えば、運動すればきつい。きついからやりたくない。でもここに食べ物がある。運動せずに食べるかどうか迷っている。美味しいものがあると、つい食べてしまいダイエットできない。その時間軸があって、これを食べなければ、ダイエット出来てスマートな体になるかもしれないが、それは遠い先の話で不確実性があり、確実ではない。そういったことが、人間の行動には影響していると言われている。そういったことも意識しながら仕掛けるべきと思う。そういった考え方をもとに、つないだり、仕掛けを作ったりといったことを皆さんと一緒にやりたいと考えている。

○ 委員

私は「子どもの遊びプランナー養成事業」に関わらせていただいております、東区からも20名近くの意識のある方が集り取り組んでいる。この小さなコミュニティからやっていこうということで頑張っている。大人を対象にしたまちづくりの事業がいろいろとあるが、子ども達も関わってもいいのではないかと。子ども達もいずれ大人になるので、幼少期の体験を通じて、まちづくりに関わっていくとよいのではないだろうか。

○ 会長

例えば、おじいちゃん、おばあちゃんが何かに参加する際に、孫を連れて行くといったことですね。

○ 委員

そこには、子ども達の世話をする人が必要になるかもしれないが、世代間の交流がないという意見も多数あるので、そういったことも必要ではないだろうか。

○ 委員

私の町内では、年1回必ずイベントを開催する。子どもから大人まで、男性も女性も全員が参加できるようにいろいろと考えて行っている。また、少しお金は必要になるが、イベント終了後に懇親会を行うようにしている。そこには、子どもも大人もみんなが参加する。懇親会では食べ物もアルコールも出している。イベントに参加しないと懇親会に参加しづらいということもあり、子どもから大人までみんなイベントに参加する。もちろん男性も大勢参加する。20数年続いており、みんな顔見知りになり、町内の親睦も深まる。

○委員

私が公立病院に勤めていた頃は、地域行事にほとんど参加出来なかった。毎回、参加は出来ないが、日曜日だけ参加するなど、別のかたちでの協力は可能であると思う。参加出来なくても、ということがあったのか子どもと話すことは出来ると思う。解決するには、そういうかたちも必要ではないだろうか。うまく企画が出来ない地域は、父親が出てこないことになってしまう。父親が参加するというのを目的とするならば、そういう方向性もあると思う。

○会長

いろいろな地域がいろいろなノウハウを持っていそうだが、それが町内毎に断片化されていて、なかなか知識が共有されていないようだ。

○委員

小学校 PTA でおやじの会があると思うが、卒業したお父さん達が、まちづくりに協力してくれている。続いているというのは、楽しいからだと思う。

○会長

PTA 活動やおやじの会といったものが、まちづくりの戦力へスライドして行くということですね。

○委員

世代によって参加が少ないというのは、こちら側からの情報発信の仕方にも問題があるのではないだろうか。私もおやじの会に参加しているが、全く無関心の方というのはいないと思う。人の心を掴むような広報の仕方があると思う。デザイナーの方達がすごく得意で、いろんなフェスにおいて、おもしろい発想や文言を使って呼び込みをしている。そういったこともしながら、子育て世代のお父さん達を引っ張り出すにはどうしたらいいか。子どもがお父さんに何を期待するのか、お父さんが活躍して「パパかっこいい」とったニュアンスのものを含めて考えてはどうか。いろんな行事において、少し概念を変えていく必要があるのではないか。地域防災にも様々な取り組みがあるが、例えば、災害訓練をする際に土のう運び競争をして、有事の際にどれだけ活躍できるか、どのお父さんが1番早いかといった、何か評価できるような遊び心も取り入れていったほうがいいと思う。そういった遊び心を取り入れたものでなければ、今のお父さん達は参加しないのではないか。昔からの規律を少しだけ崩して、どうすれば親子でそろって楽しんで参加するかということを考え、実行していくと参加率も上がると思う。広報手段は紙媒体ではなく、ソーシャルネットワークを使って打ち出すほうがいい

と思う。そして先ほども話したが、まずは小さい単位から始めるということではないだろうか。

○会長

もしかすると今、行われている活動の中には、お父さんの出番がないのかもしれない。

○委員

活動を継続していくためには、そういった取り組みも必要な時代になってきたのではないだろうか。

○佐土原委員

PTAにおいても参加者が少なくなっている。昔は「子どものため」という考えがあたりまえであったが、今の若い世代は、それが薄れてきている。こちらの伝え方が悪いのかもしれないが、共働きでどうしても参加出来ない方が多い。それは父親のみならず母親も出て来られない。毎年、役員を決めるのも困難な状況である。意識のない人達をどう変えていくかというところも私たちは努力していかなければならない。また、企業のほうにもう少し地域に参加するよう言っていただければ、違ってくると思う。

○委員

子育て世代の父親、母親は仕事が忙しく、行事への参加は難しいなら、おじいちゃん、おばあちゃんが孫を連れてまつりに参加する。子どもの頃の思い出は、いつまでも覚えている。そういった子ども達が大人になって、地域に関わっていくようになる。すぐに結果だけを求めるのではなく、続けていくことも大切であると思う。

○会長

松永委員は、託麻三山のまちづくり活動で自治会とも連携されていると思うが、何か意見はないか。

○委員

町おこしについてであるが、熊本城の近辺だけが繁栄するのではなく、市全体が繁栄するように持って行くべきと思う。町おこしをするのであれば、健軍商店街が賑わうのがいいと思う。商店街の繁栄を考えて進めていくといいのではないだろうか。益城町では、史跡を掘り起こしてスタンプラリーを行っており、シャ

ッターが降りた店はないそうだ。

○会長

様々な意見が出されたが、地域のまちづくりは、小さなところからしっかり人間関係を作っていかなければならない。それができたら大きなプロジェクトを始めてもいいのではないか。ミクロとマクロを見据えて、まちづくりを進めていく必要があるという意見であった。また、おじいちゃん、おばあちゃんは孫を連れて行こうという意見やお父さんの居場所を考えようという意見も出された。様々な地域で様々なまちづくりをされていて、いいアイデアも眠っているように感じた。この場に限らず、各自治会におけるノウハウを集めて共有するような取り組みをしてもいいのではないだろうか。

引き続き来年度以降も議論させていただきたい。その際に、皆さんの意見をいただきたい。場合によっては、まちづくり懇話会による「まちづくり提言」の様なものも考えたい。

○会長

それでは、報告事項に移る。報告事項（１）について事務局から説明をお願いします。

■事務局

報告事項（１）まちづくり支援機能の強化と出張所等の再編について（資料３）説明

○会長

何か意見、質問はないか。

意見、質問がなければ、報告事項（２）について事務局から説明をお願いします。

■事務局

報告事項（２）健康まちづくりシンポジウムについて（資料４）説明

○会長

報告事項についてはここまでとする。事務局から何かあるか。

■区長

本日の懇話会において地域、企業、行政の連携が必要であるとの意見が出されたが、現在、東区においてもまちづくり応援団の制度設計を行っているところである。事業者は様々なところでまちづくりに貢献したいという思いがあるが、マッチングがうまくいっていない現状があるため、この制度を検討しているところである。制度設計中であるが、新年度には説明出来ると思う。

○会長

事業者の方々を対象にした制度ということですね。

■区長

内容としては、人、物、お金、場所、広報媒体といった様々な面で協力いただけるのではないかと考えている。それを地域活動とマッチングする。協力できる企業をまちづくり応援団として登録していただき、地域からの要望に応じてマッチングする。そういった制度を作りたい。様々な活用が出来ると思う。

○委員

ひとつ質問したい。校区で献血を行っており、事業者へも協力を依頼するが、あまり協力いただけない。そういったものもお願いできるのか。

■区長

そういったことも想定に入れて制度設計を進める。

○会長

制度が決定したら、報告をお願いします。

本日はこれで終了する。